

ナンタイシダ	<i>Athyriumohra maximowiczii</i> (Baker) Sugim.	絶滅危惧 I 類
		オシダ科
選定理由	もともと生育地が少ないうえ、山林の林床で他の植物との競合に弱く、生育条件も限定されているため、種の存続への圧迫に絶えずさらされている。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	夏緑性のシダ。根茎は短く這う。葉柄下部には茶褐色の鱗片をもつ。葉身は三角形で3-4回羽状複生。	
生態的特徴	山地の林床に生育する。	
分布状況	本州(東北地方南部から近畿)に分布する。岐阜県では県北東部に生育地がある。	
減少要因	温暖化による周辺植生の遷移および、周辺植物の繁茂など植生環境の変化。	
保全対策	山林の開発を控え、繁茂する周辺植物を除伐するなど、生育環境の維持活動。	
特記事項		
参考文献		

文責:村瀬正成